

永眠者記念礼拝 2020年9月20日(日)

題 「神さまの愛に包まれて」

テキスト：ヨハネの手紙Ⅰ 4章：7～12節

(聖書の個所は最後にあります。)

本日はコロナ禍の中ですが、秋季永眠者記念礼拝をこうして皆様と共に捧げることのできます幸いを神様に感謝いたしております。記念礼拝にお越しくださり心から感謝申し上げます。今年10月洲本教会は教会創立117周年を迎えます。その長い歴史の中に礼拝堂にお写真が掲げられている方々をはじめとして、多くの天上の友の方々がおられます。それらの方々の上に、神さまの平安を心よりお祈りいたします。

皆様、様々な思い出が、今よみがえって来られているのではないのでしょうか。集われましたお一人おひとりの上に神さまの慰めを心よりお祈りいたします。

昔、パイプオルガンの演奏者の方から聞いた話なのですが、小学校で授業などの区切りをつける時になる音楽があります。音と言ってよいかもしれません。「ドミレソ・ドレミド・ミドレソ・ソレミド」。あの音の由来は、そもそもイギリスのウェストミンスター寺院の鐘の音だということでした。そして、人生の4つの意味を表しているのだということなのです。それは、喜び、悲しみ、慈愛、そして希望の4つの意味です。わたしの住んでいる修禱館(牧師館)のすぐ近くにある第3小学校から毎日この音が聞こえて来るのですが、その度慰めを与えられているのです。

天上に召された方々お一人おひとりが人生の喜び、悲しみ、神さまの慈愛、イエス様に希望を感じながら、与えられた人生を精一杯生きて行かれ、今は天上で憩うておられることを信じます。わたしたちもその歩みに連なりたいと願っています。

今日の聖書個所は、「神の愛」について語られています。「愛の賛歌」であるとも言われます。神さまの愛は、ギリシア語でアガペーと言われ、混じりけのない、100%純真な愛のことです。この神の愛を知り、与えられた者たちは互いに愛し合おう、大切にしようとしみます。こうして神の愛は人間関係の中に広がっていくのです。

わたしたちは、生活の中で時々、「一体どこに愛があるのか」と思うことがあります。人と会うことは楽しいと思う時もありますが、人とは会いたくない、人とあうのは圧力で、緊張するという人もいれば、そういう状況になることも

現実であります。

さて、今日の聖書の箇所は、「愛の賛歌」と言われる箇所です。

「7:愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。」とあります。

わたしたちの人生には、喜びもあり、病気や、貧しさ、家族関係の破れなど、苦しみや悲しみも多くありますが、どんな中でも愛なる神さまは共にいてくださいます。

「10:わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」 聖書でいう愛について、わたしたちはしっかり心の深みに覚えておきたいと願います。

神は、最も愛された御子イエス・キリストをこの世にお遣わしになりました。この愛は、議論ではなく、神さまの決断による行いでした。神が愛である証拠、エビデンスはイエスさまがこの世に来てくださったということにあるのです。ここに愛があるのです。どんな人も神さまの愛に包まれているのです。時に、神さまの働きは、わたしたち限りある人間には、理解しがたく、測りたいものがあるように思っています。しかし、神さまは愛なる方であり真実なお方なのです。そのことは間違いないのです。

主イエスは神から離れている人を招くために、新たに愛と自由に生きていくために、自ら十字架について全き愛を示してくださったのです。

ここに神の愛があるのです。

「信徒の友最新号の9月号」にキリスト者森永太一郎のことが他のキリスト者の実業家の創業者と共に記されていました。森永太一郎はご存じの方も多いと思いますが、森永製菓の創業者で「ヤソのお菓子屋さん」と呼ばれたそうです。

かつて洲本教会にも伝道のために来られたことが、記念誌に記されています。彼は若き日にアメリカに陶器を販売しに行きますが、うまくいかず、行き詰まり寝る場所もない中、日本人メソジスト教会に泊めてもらい、そこの集会に出席したのです。そこには北海道農学校で内村鑑三らに洗礼を授けた宣教師ハリスという人がいました。ハリスは森永に洗礼を勧めますが、彼はキリスト教は邪宗と教えられていたので断ります。この後、彼は近くのオークランドに移り、家の雑役をして過ごしていましたが、ある家庭で大変親切な夫妻と出会ったのです。日本人である彼を差別せず平等に扱ってくれたのです。それがキリスト教信仰のゆえであったこと知った森永は、食わず嫌いを反省し、聖書を読み出し、ついにステパノの殉教の場面に「到底迷信ではできない」ものを感じ、「活

ける神を父と呼ぶことができる恩恵」に感謝して1890年ハリスから洗礼を受けたのです。

その後、日本に帰って来て、最初はマシュマロを売り歩き、「ヤソのお菓子屋さん」と呼ばれたそうです。東京赤坂に二坪で森永西洋菓子製造所を始め、店の看板には「キリストイエス罪人を救わんために世に臨(きた)り給(たま)へり」とあったとのこと。

神さまは不思議なお方です。人間の予測や思いを超えて時に働かれます。

完全な愛とは、人間の業ではなく、神の業なのです。御子であるイエス・キリストをこの世にお遣わしになったということが神の愛なのです。

神は、罪を贖ういけにえとして、イエスを十字架につけられたのです。神から離れた心と呼び求め連れ帰すためにです

7:愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。とある通りです。愛に生きる者たちは、神さまの愛に包まれているのです。互いに愛し合って、大切にしながら生きていたいと求め願うのです。

今日はこうして、永眠者記念礼拝を捧げることの出来る幸いを感謝しています。

天に召されたお一人お一人の方は、この神さまの愛に包まれ天に召され、神さまからの平安の中に憩うておられることを信じます。

これから先の与えられた人生を生きるわたしたち、永眠された方々のことを心に覚え、神さまから与えられたイエスさまにあるつながり、「神さまの愛に包まれて」お互いに大切にしながら生きて行きたいと願います。

◆神は愛

- 7:愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。
- 8:愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。
- 9:神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。
- 10:わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。
- 11:愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。
- 12:いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってくださり、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。